



学校だより

10月号 第419号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

教育も「パラダイムシフト」

校長 金森 孝子

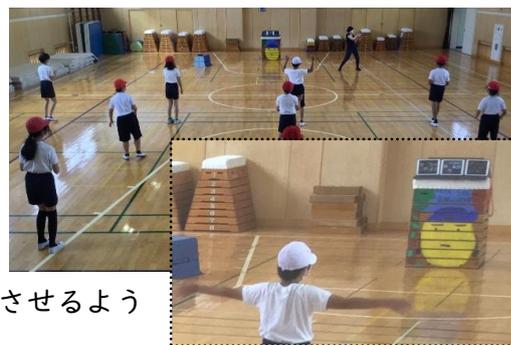
一人一台専用 iPad での授業が展開されるようになった9月、これまであまり聞かれなかった片仮名言葉が、どのクラスからも頻繁に聞かれるようになりました。「タップして、、、」「スワイプして、、、」・・・ICT関連の言葉は、意味の理解が曖昧なことも多く、大人でも「今さら聞けない」と話の文脈から「きっと、〇〇のようなことだろう、、、」と判断したり推測したりすることも多いと思います。子どもたちは、そのような片仮名言葉を使いながら、この一ヶ月でiPadを介しての学び合いを自然に行うようになりました。ICT教育の展開と可能性に、私自身、驚きを隠せていません。

1年国語「かたかなをみつけよう」では、教室の中にある片仮名の言葉を見つけて写真を撮りiPadの手書き機能で片仮名カードを作っていました。一人一人がカードを提出することで、テレビの大画面で共有され、片仮名の言葉を増やすことができます。一見、複雑と思える作業を子どもたちが「教えて!」「次どうすればいいの?」と関わり合いながら短時間で体得してくことに、正直感心しました。そして、誰もがその学習を楽しんでいました。



3年国語「はじめて知ったことを知らせよう」では、ノンフィクションの本の紹介を行っていました。分散登校中に家庭学習で本を紹介している姿を画像に取り、データで提出し、その画像を登校している子どもたちが観るという活動です。事前に学校で本を選び、発表の仕方を学んだうえで、紹介の画像を家で撮る、この期間だからこそできた学習だと思いました。

5年生では、オンラインで学校と家庭をつないでの体育学習が行われていました。体育館で運動会の演技を練習している様子を家庭学習の子どもが視聴しています。担任は、「クラスみんなで演技できたらいいな」ということで設定した授業だったけど、結局家にいる子どもたちは観るだけになってしまった。それでも、しばらく会えない友達の様子を見つけて嬉しそうだった。演技した子どもたちは張り切っていた」と。つながる楽しさ、オンライン学習の未知の部分を感じさせるような取組だと思いました。



端末の配付が決定して以来、iPadを用いて資質・能力を伸ばしていくにはどのように授業や家庭学習を組み立てたらよいただろうと、教職員は各々アイデアを出し、学習のスケジュールを組み立てました。子どもの反応を見ながら改善する日々でしたが、子どもの吸収力の速さとその効果を実感しながら、「子どもがiPadを文具のように活用する日」が近いこと、教育現場での「パラダイムシフト」が今進行中であることを確信した一ヶ月でした。

5・6組 個別学習
国語 ことばあつめ2年 音楽「こぎつね」
歌の発表(録音)鑑賞4年 社会「地域で受け継が
れてきたもの」情報の共有6年 国語「やまなし」
感想の交流